第２学年Ａ組　道徳学習指導案

指導者Ｔ１　教諭　水内　幸恵
Ｔ２　教諭　冨島　一枝

１　主題名　　社会への奉仕　４－（５）

２　資料名　　「加山さんの願い」
（文部科学省　中学校　読み物資料とその利用－主として集団や社会とのかかわりに関すること－》

３　主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

内容項目４－（５）は，「勤労の尊さや意義を理解し，奉仕の精神をもって，公共の福祉と社会の発展に努める」ことをねらいとしている。

私たちは共同生活を営んでおり，社会を構成する一員として生きがいをもちよりよく生きようとしている。一人一人が働くことにより相互依存が成り立っている。

近年，「ボランティア活動」という言葉を耳にする機会が多くなった。身近なお年寄りの世話から国際援助活動まで多様であるが，その基盤は社会への奉仕の精神である。このことは，勤労とともに社会生活を支える根本であると言える。

しかし，中学生の時期におけるボランティア活動は，ともすると他者の立場を考えずに独りよがりに陥り，自己満足に終わってしまう傾向がある。

奉仕の精神とは，相手のことを考えて，自分ができることをするものである。独りよがりの自己満足ではなく，相手のことを考えることで，より社会への貢献に伴う喜びとともに，奉仕が自己の生きがいのある人生につながることに気付かせたいと考え，本主題を設定した。

(2) 生徒の実態について（男子16名・女子22名・計38名）

平成22年１月21日実施

《アンケート調査》
①　ボランティア活動をする人をどう思いますか？
　○　尊敬する・・24人　　○　ぼくにはできない・・13人
　○　何とも思わない・・１名
②　ボランティア活動に進んで参加したいと思いますか？
　○　やってみたい・・・13人
　○　やりたくない・・・16人
　○　何をやったらよいかわからない。自分にできることはない・・・10人
③　ボランティアを受けたことがありますか？
　○　ある・・・０人
　○　ない・・・38人

本学級の生徒は，夏休みに職場体験を通して，働くことの喜び，充実感や社会を支える生きがいについて気付くことができた。立志式において実際に世界でボランティア活動を行っている方の話を聞いたことで，ボランティア活動を行う人に対して尊敬の念を抱くようになった生徒も多く，ボランティア活動への関心が高まってきている。しかし，生徒たちは，ボランティアを受ける側になったことがないので，ボランティア活動を行う際に，「かわいそう」「やってあげる」など，上からの目線で相手に接してしまう心配がある。

そこで，本時では，ボランティア活動に臨む気持ちなどの望ましい在り方を考えさせたい。

(3) 資料について

独居老人の孤独死に心を痛めた主人公が，自分にもできそうな老人訪問のボランティアを始める。しかし，簡単だと思っていたこの仕事が，なかなか一筋縄ではいかないことを知る。主人公が訪問した二人の老人を通して主人公が自らの認識の誤りに気づいていく姿から，ねらいに迫ることができる。主人公の目線が，受け手と同じ立場の目線に変わったとき，世話をする側とされる側の互いの心が通じ合う。地域の住民との人間関係やボランティアの在り方について理解を深められる資料である。

４　本時の指導

(1) ねらい

ボランティア活動をする人は，受ける人と同じ目線で接することが大切であることに気付く。

(2) 準備・資料

資料，挿絵，ワークシート，写真

（3）展　開

時間	主な活動と発問 （◎中心発問）	予想される生徒の反応	教師の支援・評価 Ｔ１	 Ｔ２
	1　新聞から今の孤独死の現状について話し合う。	・かわいそう。 ・なんか悲しすぎる。 ・知らなかった…。	・新聞の記事から，本時への意識付けができるようにする。	・新聞の内容の資料を提示する。
5	2　資料を読んで，話し合う。		・登場人物も多く複雑な人間関係になっているのでＴ・Ｔによる音声での資料提示を行う。役割分担読み（主人公と地の文）	・役割分担読み（主人公以外の登場人物）
	○　「いらぬ世話をしないでくれ」と言われた加山さんはどんな気持ちだったろうか。	・親切でやっているのに ・なぜあんなことを言われなくてはいけないんだ。 ・ボランティアは難しい。 ・ぼくのこと嫌いなんだろうか？	・Ｔ１は，発問後，共感的な態度で，生徒の意見をしっかりと共感的態度で聞くことに専念する。 ・加山さんがボランティアを始めた動機をしっかりとおさえてから発問することにより価値に迫りたい。	・加山さんの挿絵を掲示し，加山さんの気持ちに迫らせたい。 ・ポイントを押さえ分かりやすく板書をする。
	○　田中さんにいかにもすまなそう「すみませんね」と言われた加山さんはどんな気持ちだったろうか。	・悪い気はしない ・少しは役に立ったかな？ ・中井さんもこうじゃなくちゃだめだよ。 ・どうして申し訳なさそうに「すみません」って言うんだろう？	・ボランティア活動をしようと思った加山さんの気持ちに共感させたい。 ・「いかにもすまなそうに」をキーワードに発問し，価値に迫りたい。 ・相手のことを考えず独りよがりになっていた主人公の気持ちに迫りたい。	・田中さんの挿絵を持ちながら「すみませんね」と生徒に話しかけ田中さんの気持ちに迫らせたい。
25	◎　加山さんが満たされた気持ちになったのはなぜだろう。	・加山さんになれてきたから。 ・加山さんが何回も来てくれたから。 ・やっと対等になったような気がしたから。 ・加山さんの態度が自然だったから。 ・上から目線じゃなく同じ目線で普通に話してくれたから。	・義務感から加山さんは訪問を続けたことをしっかりとおさえ，中井さんが心を開いてくれた時の喜びにつなげていきたい。 ・「中井さんが加山さんに心を開くようになったのはなぜ？」と補助発問をしてから，中井さんの気持ちの変化に迫りたい。 ・通じ合った時の加山さんの喜びを板書からも伝わるようにする。	・田中さんの挿絵を黒板に張り，板書を行う。 ・加山さんの挿絵を笑顔に替え，気持ちに迫らせたい。
35	○　雨の中傘を持ったまま加山さんはどんなことを考えていたのだろう。	・私は，ごう慢な態度で田中さんに接していたのではないか。 ・上から施すような態度が田中さんに接していたのではないか。 ・ボランティア活動の本当の意味を間違っていたのかもしれない。	・ボランティア活動を受ける側の気持ちに迫らせたい。 ・半数の生徒の机間指導を行い，意見をチェックする。Ｔ２からの報告を基に，多様な意見を出させるための意図的指名を行う。 ・机間指導をしながら，ボランティア活動の本当の意味についても考えさせたい。 （評）ボランティア活動をする人は，受ける人と同じ目線で接することが大切であると気付くことができたか。（ワークシート）	・半数の生徒の机間指導を行い，意見をチェックし，発表させたい生徒名とその考えをＴ１に伝える。 ・傘を差す加山さんの挿絵を張る。
50	3　教師の説話をする。		・共存共生の社会に気付かせたい。	・Ｔ２の体験談を話す。

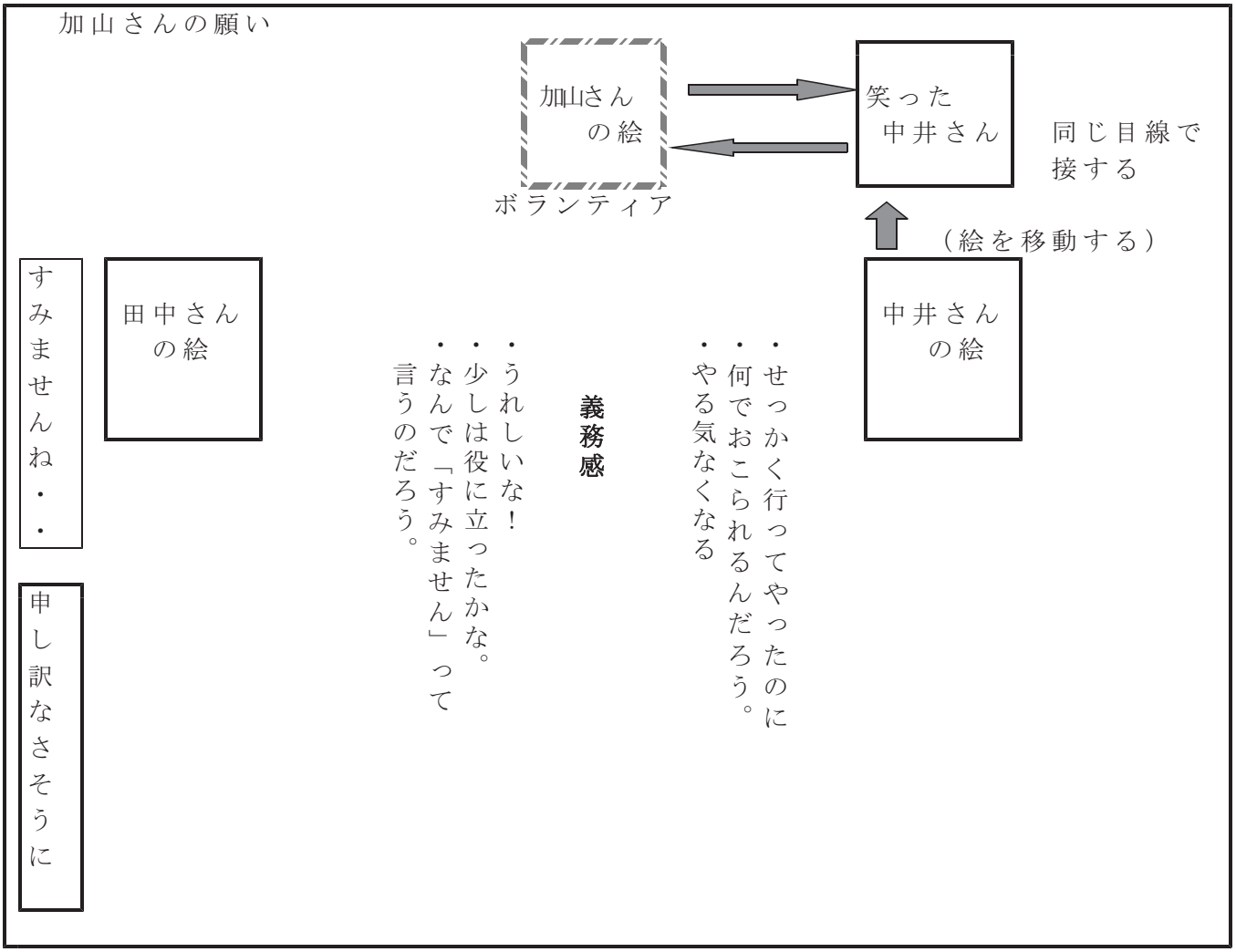
6　発展

・総合的学習の時間「職場体験発表会」

7　事後の活動

・将来の進路について（学級活動）

【　板書構成　】


加山さんの願い
加山さんの絵
ボランティア
笑った中井さん
同じ目線で接する
（絵を移動する）
中井さんの絵
・せっかく行ってやったのに
・何でおこられるんだろう。
・やる気なくなる
義務感
・うれしいな！
・少しは役に立ったかな。
・なんで「すみません」って言うのだろう。
田中さんの絵
すみませんね・・
申し訳なさそうに